

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて

123

つまずきをどう克服したか ⑬

(熊本地震を乗り越えて 剣道—短時間での指導方法)

熊本県合志市立合志中学校

平成28年4月、およそ820人が在学するマンモス校の合志中学校に坂本健志朗教諭は赴任。特別支援学級以外で初めて保健体育の授業を受け持つこととなった。その4月中旬、熊本地震が発生し、熊本県合志市も甚大な被害を受けた。

地震の影響により、剣道の授業はそれまでのおよそ半分の4・5時間に短縮。短時間という制約がかかり、本当の剣道を生徒に伝えたいと思う坂本教諭にとってハードルはますます高くなった。「初めての授業なのに」と面食らいながらも、「きつい」「堅苦しい」「痛い」という剣道のイメージを拭い去り、剣道の楽しさを伝えたい一心で、坂本教諭の授業実践が始まった。

今回は、昨年10月24日の取材をもとに、短時間で効果的な授業を行っている合志市立合志中学校の剣道授業を紹介したい。

1 熊本地震を振り返る

平成24年度から合志市立合志中学校では剣道授業を実施しており、平成27年度は1年間でおよそ8時間程度の授業を武道場で実施していた。近年、合志市は熊本市のベッドタウンとなり、人口は急増。合志中学校も1学年に7〜8クラスを有し、およそ820人が在学するマンモス校となっていた。

平成28年度に坂本健志朗教諭は

赴任。特別支援学級での指導経験はあるものの、教科体育での指導は初めてに近かった。自身は大学まで剣道を専門としてきたので、大規模校での初めての剣道指導に胸を弾ませていた。

そんな最中、赴任早々の4月中旬に熊本地震が発生したのであった。

地震は深夜に発生。学校は耐震工事を行っていたため、大きな被害は出なかった。しかし、校舎の一部と武道場が被災。校舎には緩衝材が落ちていたという。

「当日、学校は生徒の安否確認を

していました。我々はそれからカップラーメンばかりでしたよ」

当時、教育委員会に在籍していた徳淵盛也合志中学校長は苦笑しながら当時の様子を振り返る。全国からの支援活動により、生徒全員分のペットボトルの水が毎日のように届けられたという。なんと5月9日には授業を再開。給食は簡易給食として、パンと牛乳のみであった。地域住民からも声が上が

り、5月末には、慣例であった体育大会を開催した。

「当たり前だと思っていた光景は当たり前ではなかったのです…」



熊本県合志市立合志中学校

競技に一生懸命に取り組む生徒は感動的でした」

熊本地震による震災からわずか1カ月後の体育大会の様子を徳淵盛也合志中学校長はこう述懐する。

2 震災後の剣道授業

「校舎も立ち入り禁止となり、一堂に集まれる場所が体育館のみとなりましたね」

坂本教諭も震災後の学校の様子を振り返る。

剣道授業も地震の影響により、体育館での実施となったが、授業時数の確保が難しく、1、2年生でわずか計9時間の授業実施となっていました。授業実施は秋から冬にかけて、待ったなしの指導計画作成であった。

面食らいながらも坂本教諭はまず、自分が生徒にどのような剣道を伝えたいかを考えた。そして出した答えが、「ゲームなどの要素

も取り入れて楽しみながらも剣道の本当の楽しさを伝えたい」であった。そこで菊池郡市中学校体育研究会や日本武道館と全日本剣道連盟が主催する全国剣道指導者研修会に参加し、その研修会で提示された教材を参考にした。そして自身の剣道経験も活かし、短時間で生徒が主体的に学べる指導計画を作成していった。

また、中学校学習指導要領に定められている「相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること」ができるように、1年時の目標を「素振りができるように」、2年時の目標を「簡単な試合ができるようになる」と設定した。

3 授業の実践

それではここで坂本教諭の剣道授業を見てみよう。

約60名による1回目の剣道授業が実施されていた(なお、この学年は1年生で剣道を実施していないため、通例であれば1年時に行う内容を2年生で実施していた)。「今日から武道の授業です。武道では声が大切です。大きな声を出しましょう!」と坂本教諭。「お願いします!」と大きな声でそれに応える生徒たち。授業者は唯一の教諭がそれを補助する。生徒は体育着で授業を受けている。

はじめに生徒は体育館いっぱいになり、準備体操が行われた。ゆつたりとした音楽に合わせて体操を行う生徒たち。次にアップテンポの曲が流れ、腕立て、腹筋などを生徒がこなしていく。この音楽による準備体操とウォーミングアップは1年を通して体育授業で行われている。ちなみにこの音楽によるウォーミングアップは生徒から「きつい」と声が上がりに評だそう。それが狙い。「このウォーミングアップは運動量を補う意味でもありません。『きつい』とはそ



坂本教諭による新聞切りの模範

が一刀両断。「どうやったら2つに切れるかな。模索しながらやってみてください」と生徒に投げかけ、実践へと移った。

新聞切りは約12グループに分かれて実施。綺麗に切れる生徒、全く切れない生徒などまちまちである。2人の教諭でそれをチェックしていく。

「注目！ 上手くいかない人もいるのでコツを教えましょう。斜めに切れば切れるかな？ 竹刀は真っ直ぐに振るのが基本です。また、手のスナップを効かせることも大切です。新聞は面の高さにし



諸所からキレのいい音とともに拍手が起こっていた

てください」と坂本教諭より、新聞切りのヒントが教えられた。俄然やる気になった生徒たち。諸所から「スパツ」とキレのいい音とともに拍手が起こっていた。新聞切りの最後に坂本教諭は「どうしても切れない人はちよつとだけ新聞を破っておけ（笑）」

最後は上半身のみでの素振りを5回行い、授業は終了した。

必要なものだけ教えて生徒に考えさせ、最後は成功体験を与えて生徒に身につけさせる、実に練られた授業であった。

授業後、生徒に話を聞くと「日



全体指導

本の武士文化に触れることができました。新聞切りはちゃんと切れたので気持ちよく面白かったです」との感想が寄せられた。

この日の授業ではなかったが、この新聞切り以外にも前述の全国剣道指導者研修会で提示された教材を上手く活用し、それらは大変な効果を上げているという。例えば「おいで、おいでゲーム」であれば「これは目隠しをした生徒を



大きな声で別の生徒が呼びよせ、その早さを競うゲームであるが、普段大きな声を出すことをためらう女子が大変盛り上がりが、声も格段に出せるようになる。そのまま素振りをさせたところ、「全然違うね！」と他の教員から驚きの声が上がったという。

同じく全国剣道指導者研修会での「リズム剣道」も「リズム稽古」



音楽によるウォーミングアップ



坂本教諭は武士になりきり左座右起を解説



「新聞切り」では生徒は考えながら竹刀を操作



工夫しながら「新聞切り」を行う

れだけ効果が出ているという証拠です」と付け加えた。

坂本教諭より本日の目標として、「日本古来の礼儀に触れる」「竹刀の操作をできるようにしよう」の2点が掲げられた。

次に礼法について指導。モニターで礼法を表示しながら「正座には左足から座り、右足から立つ」という決まりがあります。何故でしょう」と生徒に問いかける。「武士は左側に刀を提げていたので如何なる時でも足が邪魔にならずに刀が抜けるようにしていました。それで左座右起という決まりが

あります」。ジェスチャーで実際に示しながら生徒にわかりやすく説明していった。続く正座と座礼の指導では、「正座では、手は丹田に添えて背筋を伸ばして目を閉じる」「座礼では、顔の前に手で三角を作って頭を下げ、3カウントで上体を起こします」と端的にスピーディーに説明が加えられていった。

いよいよ竹刀操作の指導に入った。最初の竹刀操作は「新聞切り」である。前述の全国剣道指導者研修会で最初の段階で提示される教材である。

「さて、竹刀の操作方法ですが今日は教えません！ 自分で考えてください」と坂本教諭。

「ただし、やってはいけないことを教えますのでこれは守ってください。」「竹刀を粗末に扱わない」「指示なく竹刀を振り回さない」「竹刀で人を叩かない」と最低限の説明と条件を伝えた。生徒の主体性を基調とする授業の方針が窺える。

「生徒は教師が言ったことはすぐに忘れろと思いました。しかし楽しんで出来たことは決して忘れません」

坂本教諭は教えない意図をこのように解説してくれた。教えないだけで生徒がよりよく身につくことができればこれほど効率がいい授業はないであろう。しかし生徒が主体的に技術を身につけるためにはそれなりの工夫が必要となる。

モニターには「新聞を一刀両断」しようと表示される。

「右手が上、左手が下。つるが上向きです」と竹刀の持ち方を簡単に説明。「つるは日本刀の峰にあたります」と話しながら生徒2人に新聞四隅を持たせて、坂本教諭

剣道の指導計画

時	1年時				2年時				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学習内容	・オリエンテーション ・礼法 ・竹刀の扱い方 ・新聞を一刀両断しよう。	・足さばき ・足さばき DE だるまさんが転んだ。 ・素振り	・大きな声を出す ・おいおいでゲーム。	・素振りテスト	・1年時の復習 礼法構え 足さばき 素振り ・跳躍素振り ・リズム稽古。	・剣道具の扱い方、着装 ・間合いの攻防 ・間合いの攻防ゲーム①、(ハチマキとり)	・基本打ち面、小手、胴のしかけ技	・仕掛け技の攻防の展開 ・間合いの攻防ゲーム②、 ・地稽古	・簡単な試合 ・時間内に何本打てるか。
目標	・礼法を身に付ける ・竹刀を真っ直ぐ正しく振れるようになる	・正しい足さばきを身に付ける ・手と足を連動させて竹刀を振れるようになる	・大きな声を出して素振りができるようになる	【評価基準】 ・竹刀をまっすぐ振れているか ・足さばきは正しいか ・大きな声が出ているか	・1年時の学習内容を思い出す ・基本動作を音楽に合わせて主体的にできるようになる	・剣道具の扱い方を知り、身に付けられるようになる ・間合いの攻防の必要性を知り、感覚を身に付ける	・間合いの攻防からの面打ち、小手打ち、胴打ちを身に付ける	・攻守に分かれて、間合いの攻防から有効打突を狙うことができるようになる ・お互いの技の攻防ができるようになる	【評価基準】 ・思い切った打突ができてきているか ・間合いの攻防ができてきているか ・大きな声が出ているか

と改称して実施されている。剣道の基本となる動作を音楽に合わせて実施するものだが、これは前回の復習・運動量の確保において非常に時間の節約に繋がり、剣道具の着脱に時間を費やせるようになったそう。

加えて前述の菊池郡市中学校体育研究会のアイデアも採用している。剣道具の着脱の時間短縮のため、面の下に手拭を用いず、スイミングキャップを使用しているそう。

それらの教材をどのタイミングでどれだけ行うかは、坂本教諭が考え、毎年少しずつ工夫を重ねているという。

4 まとめ

た。熊本地震を乗り越えて、最小の時間数で最大の効果を上げている合志中学校の剣道授業。

しかしながら取材を通して、本来の剣道の楽しさは伝わらずにゲーム的な楽しさで終わってしまうのではないかと疑問が生じた。そのことを坂本教諭に投げかけると意外な答えが返ってきた。

「授業が終了した後の生徒の感想からこんな感想が寄せられました。『自分は剣道はヘタです。剣道はヘタでも楽しいです。ヘタと楽しいは別だと思えます』

『2年生になってから剣道が上手くできなくなりました。先生！剣道を教えてください！』

ゲームだけでなくその先の楽しさを感じてくれる生徒がいて大変嬉しく思います」

当初、坂本教諭が目指した本当の剣道の楽しさが、短時間の授業でもしっかりと生徒に伝わっている。合志中学校の剣道授業はまさに成功例といえる実践例である。

(文〓本誌・長澤克成・写真〓本誌・古川圭太)